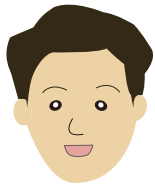
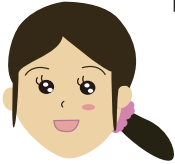


# ランプ



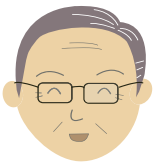
電気といえば、まず、明かりだな。



「電気をつけて」って言えば、  
けいこうとう  
蛍光灯のスイッチを入れるものね。



電気はいつから使ってるの？電気が  
なかったらロウソクを使うの  
かなあ？



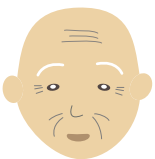
おれがこどもの頃は、はだかでんきゅう  
裸電球の下  
で夕飯を食べてたよ。今の蛍光灯  
みたいには明るくなかったよ。



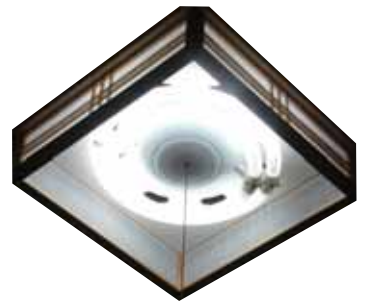
実家では、私が中学生のときに蛍  
光灯のスタンドを買ってもらって  
ね、夜はそれで勉強してたね。



おやし  
親父の小さい頃はこうだったのよ。



おお、電気か。おれが子どもの頃  
からあったさ。だけど、当時は  
ざしき いっとう  
座敷に1灯あるだけよ。夕飯のと  
きは座敷の戸を開けて、茶の間へ  
もれる光で食事したんだ。



裸電球 白熱電球のこと



裸電球のもとで食事  
昭和32年頃 広川  
(添田泰邦氏提供)

ざしき  
\*座敷

民家の客間で、土間に面した  
ひろま  
部屋。広間とも呼ばれた。

いっとう  
\*1灯

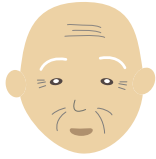
でんとう  
電灯が一つだけのこと。電灯  
の数を一灯、二灯と数えた。

ちゃま  
\*茶の間

座敷の裏側の部屋で、かって  
勝手と  
も呼ばれた。いろいろやながひばち  
長火鉢  
があり、家族が食事をとった  
場所。



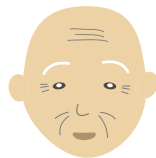
じゃあ、電気のある部屋にみんなが集まったんだね？



そうよ、他の部屋は真っ暗だから、なんにもできねえ。寝るだけよ。だけど、風呂場にはランプがあった。ランプはニワで夜なべに縄ななわいなんかするときも使ったよ。



夏に父ちゃんに行った山小屋でランプ見たよ。とってもロマンチックだった。昔はランプだったのね？



おお。ランプのホヤみがきは子どもにつかの日課だ。子どもはホヤの中に手が入るからよ。ランプは石油せきゆを燃やすから、放っとくと煤すすで真っ黒に汚れて暗くなっちゃうんだよ。だから細い棒にぼろきれを巻き付けて毎日みがいたよ。



あおい  
葵ちゃんは今の子で良かったね。



でもなんだか楽しそう！



つり下げ式石油ランプ

\*ニワ  
どま うちにわ  
土間のこと。内庭や台所とも呼ばれ、床は土でできていた。わら細工などの作業をした。

\*夜なべ  
夜に仕事をする事。

\*縄ない  
わらなどを手でより合わせて、縄をなうこと。

\*ランプのホヤ  
ランプにかぶせて火のまわりを囲い、風で火が消えないように守るガラスでできたもの。

\*煤すす  
けむり ほのお  
煙や炎にふくまれる黒いもの。いろいろで火を焚たいていた時代は、家の中が黒く煤けたので、毎年12月に煤払いすすはらをした。



# あんどん

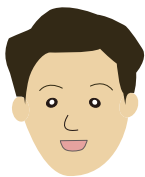


私の実家にはあんどんもあったねえ。なつかしいねえ。めったに使わないけど、お客さんが来られたときに、寝る部屋に置いてあったのを覚えてるよ。

\* 実家  
生まれた家。



あんどん



あんどんの燃料は何？



油。菜種をしばった油じゃないかな。灯芯っていう紐みたいなのを油にひたしてマッチで火をつけるんだ。

\* 菜種

アブラナのこと。花を菜の花と呼ぶ。実をしばって油をとり、天ぷら油や、むかしはあかりの油にも使われた。

\* 灯芯

原料は、い草の茎。灯明皿の油へひたし、火をつける。



灯明皿  
あぶらざら  
油皿ともいい、油を注ぐ皿。



灯芯へ火をともし、有明あんどんのふたをしめる。灯芯を太くするか、本数を増やせばもっと明るくできる。

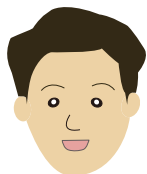




むかしの子はいんどのの明かりで勉強したの？



さあ、<sup>にのみやきんじろう</sup>二宮金次郎<sup>どりよくか</sup>みたいな努力家は別にして、<sup>のうか</sup>ふつうの農家の子は勉強しなかったよ。少なくともおれは家で勉強した覚えはほとんどないな。それに農家じゃあ、夜明け前に起きて暗くなるまでずっと働きづめだからよ、夜は<sup>ふる</sup>風呂入って<sup>ゆうめし</sup>夕飯食って寝ちまうから、今みたいに明かりは<sup>ひつよう</sup>必要なかったんだよ。



<sup>しょう</sup>翔、むかしの子だったら良かったのにな、勉強しなくて良いんだってよ。



じゃあボク、むかしの子になる。



そのかわり、朝早く起きて家のお手伝いをたくさんしたんだぞ。



どっちもやだ、未来の子になる。



おやおや、日本の未来も思いやられるねえ。

<sup>にのみやきんじろう</sup>  
\* 二宮金次郎

江戸時代の人。<sup>まき</sup>薪を<sup>せお</sup>背負いながら本を読む金次郎の<sup>ぞう</sup>像が、むかしは多くの小学校に立てられていた。



<sup>ありあけあんどん</sup>  
有明行灯

箱に<sup>まんげつ</sup>満月形の窓があいている。<sup>しんしつ</sup>寝室に置き、寝るときは箱をかぶせて明るさを弱めた。明るくするときは箱を台にして使った。





# ろうそくの明かり



もし停電になったら、懐中電灯とろうソクが頼りよね。懐中電灯っていつからあるの？



懐中電灯



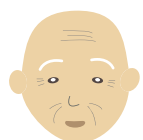
おれが若い衆に入った時分は、もう使ってたよ。

\* 若い衆  
若い男たち、青年たちのこと。ここでは青年会を指す。



親父の若い衆っていつの頃よ？

\* 青年会  
15歳から45歳頃まで加入していた、地域の青年集団。



15で青年会に入るから昭和12年頃かな。けどその頃は提灯も使ってた。火の用心のときには、棒の先に提灯さげて歩ったよ。

\* 火の用心  
「火の番」といい、火事を防ぐため、冬の夜に「火の用心」を唱えながら歩くこと。



お祭りの提灯 四之宮 前鳥神社



今もお祭りでは提灯をかざるけど、家で使った覚えはないなあ。



私は思い出すねえ、弓張提灯。お嫁に来たときに、ずらっと提灯が並んで出迎えてくれたよ。



弓張提灯



おお、青年会の若い衆が提灯持って村の境まで出迎えるしきたりだった。おれもいく度かやったよ。



ちょうちんってさ、紙でしょ。燃えちゃわないの？



ろうそくをしっかり立てるし、竹のひごに紙を貼<sup>は</sup>ってあるから、心配ない。紙でおおうと、風が吹いても消えないんだ。紙は柿渋<sup>かきしぶ</sup>をくれているから、雨が降っても破けないんだよ。



よくできてるんだね。こんど、ちょうちん持って夜のお散歩したい。



よしやってみるか。そういえば、夏<sup>きっさわ</sup>に吉沢<sup>とうろう</sup>へ散歩したとき、道ばたの灯籠にポオーッと火がともったけど、あれはろうそくの光だったのかな。



それは大山灯籠だ。本家<sup>ほんけ</sup>でも夏になると地域で立ててたよ。毎晩順番でろうそくに火を灯<sup>とも</sup>すんだよ。大山詣<sup>おおやまもう</sup>での人のために、夜道<sup>よみち</sup>を照らしてやるんだって聞いたよ。



中にろうそくを立てた弓張提灯

\* 柿渋

渋柿をしぼった液で、紙や木にぬると防水効果がある。

\* 吉沢

平塚市上吉沢・下吉沢



上吉沢の大山灯籠

\* 本家

本家から分かれた家を分家、分家の元の家を本家という。

\* 大山詣で

伊勢原市の大山へお参りに行くこと。

# 夜の闇<sup>やみ</sup>



むかしは夜になると外は真っ暗だったからな。おれなんか、高校の頃は自転車で通ってたからよ、夜は薄気味<sup>うすきみ</sup>悪い所もあったよ。



おばけが出たの？



狐<sup>キツネツピ</sup>火<sup>ヒト</sup>ってのを見たな。何にもないはずの遠くの土手<sup>どて</sup>に明かりがいっぱい並んでるんだ。



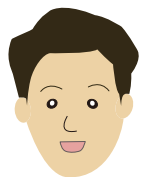
ガサガサガサ、送りイタチとかね。



おれのじいさんなんか、火の玉を見たと言ってた。そしたら間もなくその家のおばあさんが亡くなったって。



こわ～い。



今じゃ、外灯<sup>がいとう</sup>が明るいし、車も多いから不思議<sup>ふしぎ</sup>なことも起きないけどさ。むかしは真っ暗だったから、月の光<sup>じゅうごや</sup>がありがたかっただろうね。十五夜<sup>じゅうごや</sup>のお月見もするしね。

\* 狐<sup>キツネツピ</sup>火<sup>ヒト</sup>

人けのないところで、火が見えたり消えたりするできごとで、きつねのしわざと思われていた。ちょうちん行列<sup>ぎょうれつ</sup>のように見えることから、きつねの嫁入り<sup>よめい</sup>とも言われる。

\* 送りイタチ

夜道<sup>よみち</sup>をガサガサ音をたてながら何かが家までついてくるように感じるできごと。

\* 十五夜

旧暦<sup>きゅうれき</sup>8月15日の夜に、満月<sup>まんげつ</sup>に向かってそなえものをする風習<sup>ふうしゅう</sup>。旧暦9月13日の夜も十三夜<sup>じゅうさんや</sup>といって、同じようにそなえものをする。



はるかなる夜景うっとり日向岡



十五夜のそなえもの 山下